

山在峠から備崎までの道標等の確認

◇実施日 11月14日(木) 曇  
◇参加者 湯川一郎、鳥羽真司 2名

今年、大峯奥駈道は、「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として、世界(文化)遺産登録され20年を迎えました。この世界遺産登録を受け奥駈道には道標が設置されそうですが、奈良県は石柱で和歌山県は木製だったようです。今回、鳥羽さんから和歌山県内に設置されている道標等の状況を確認しておきたいとの話があり、二人で玉置辻から備崎まで歩いて確認しようということになりました。

奈良県と和歌山県の県境及び田辺市と新宮市の市境を調べたところ、篠尾辻(切畑辻)から南が和歌山県、市境になる区間が2箇所あることがわかりました。

まずは、山在峠から備崎までの道標等の状況を確認することとし、備崎橋下に車一台をデポし、上切原経由で山在峠に向かいました。山在峠に着くと、今年2月には小井谷方面からの林道通行止め看板がなくなっていました。

曇り空でしたが、展望台では大斎原や果無山脈の眺めもよく、案内図と道標の写真を撮りながら歩きました。途中、備崎経塚群の手前(標高125m)で道をふさいだ樹を処理し、備崎に降り立ちました。

【概要】

大峯奥駈道案内図は4箇所(山在峠、吹越宿、七越峰広場、156mピーク)あり、吹越宿の案内図はとても傷みがげしいものでした。また、三県(三重県、奈良県、和歌山県)等で設置された道標は17箇所あり、少しづらつくものや道標のまわりを整備した方がよいものがありますが、補修されたものや備崎に設置された道標のように新しいものもありました。



山在峠～吹越山



吹越宿



七越峰



備崎経塚群の手前

なお、当ぐるーぷが設置した道標は5箇所あり、内4箇所(山在

峠、山在峠く吹越山、吹越峠（下向分岐）、七越峰直下の尾根分岐）は杭が朽ち果てていました。（記；湯川）

### 行動タイム

山在峠 8：16→9：33 吹越峠 9：34→9：50 展望台 10：02→10：21 七越峰 10：29→11：19 備崎

### 《山在峠までの道路状況》

小井谷からの陥没箇所が復旧し通行が可能となったことで、山在峠へは上切原及び小津荷からの林道を含め、二方面から通行ができるようになりました。